審　議　事　項

頁

審議事項

１　シンポジウム等	提案1	公開シンポジウム「都市地震防災の計画行政－生活の継続を目指して－」	1
	提案2	公開シンポジウム「新型インフルエンザに関しての緊急公開シンポジウム」の開催について	2
	提案3	公開シンポジウム「科学技術と知の精神文化　新しい科学技術文明の構築に向けて」	5

1	
幹事会	８４

提　　案

公開シンポジウム「都市地震防災の計画行政－生活の継続を目指して－」の開催について

１　提案者　地域研究委員会委員長、環境学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長

２　議　案　標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

１．主　催　日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
　　ＩＨＤＰ分科会
　　日本計画行政学会

２．日　時　平成２１年１１月２１日（土）１３時３０分～１６時００分

３．場　所　東京工業大学西９号館２階ディジタル多目的ホール

４．開催趣旨
　首都直下地震や東海地震の発生が切迫している今日、地震防災対策は、行政のみならず、市民や企業にとっても喫緊の課題となっている。しかし、これまでの対策は、建物や人命損傷に関わる直接的な被害軽減や直後の応急対応に重きが置かれていた。ところが、阪神・淡路大震災以後、社会機能や生産活動や住民の生活をいかに早期に再建するかという視点から、事前の防備をしておくことが極めて重要であるという考え方が浸透してきた。企業防災における BCP の普及などがその現れである。一方、住民の生活については、生活継続のための防備（LCP：:Life Continuity Preparedness）は必ずしも進んでいない。そこで、本シンポジウムでは、都市防災学の専門家である梶秀樹東京工業大学特任教授をお招きして、担当している東京工業大学都市地震工学センターのグローバルＣＯＥプログラム「震災メガリスク軽減の都市地震工学国際拠点」での取り組みを中心に、地域住民が、発災後、速やかに日常生活をとり戻すためには、住民自身とともに、行政としてどのような方策が必要で、それらをいかに行政の計画に組み込むべきかについて議論することを目的とする。

５．次　第
　司　　会：山本佳世子（電気通信大学大学院情報システム学研究科　日本学術会議 IHDP 特任連携会員）
　挨　　拶：氷見山幸夫（北海道教育大学教授　日本学術会議 IHDP 分科会委員長 (連携会員)）
　趣旨説明：根本敏則（一橋大学大学院商学研究科）
　　和泉　潤（名古屋産業大学環境情報ビジネス学部　日本学術会議 IHDP 特任連携会員）
　講　　演：梶秀樹（東京工業大学都市地震工学センター特任教授）

６．参加資格、費用
　このシンポジウムは一般公開で、参加費は無料です。

７．関係部の承認の有無：第一部承認

2	
幹事会	８４

提　　案

公開シンポジウム「新型インフルエンザに関しての緊急公開シンポジウム」の開催について

１．提案者　食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長

２．提　案　標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

１．主　催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同新興・再興感染症分科会、同臨床医学委員会免疫・感染症分科会

２．日　時：平成２１年１２月９日（水）１３：００～１７：４５

３．場　所：日本学術会議講堂

４．開催趣旨：

インフルエンザは､10～数 10 年に一回その姿を大きく変えたインフルエンザウイルスの登場によりパンデミックが引き起こされることがこれまでに経験されており、これに対する備えが地球規模での課題となってきました。インフルエンザパンデミック対策の基本は、出来るだけ新型インフルエンザウイルスの発祥を遅くし、発祥した場合には疾病の拡大を遅らせ、また拡大した場合には健康被害と社会の混乱を出来るだけ少なくするところにあります。またその対策は、医学・医療の分野だけではなく、公衆衛生的対応、そして社会における理解と取り組み、そしてこれらの組み合わせが必要です。さらにこれらの対策は、新型インフルエンザパンデミック対策のみのためにあるのではなく、その他の新たな感染症あるいは既存の感染症（新興再興感染症）のアウトブレイクへの対応に応用が可能であり、感染症対策全体の底上げとなるものです。

そのようにして準備が進められている中、本年４月メキシコに端を発したと考えられる「新型インフルエンザウイルス」が明らかとなり、わが国を含め世界中に拡大しております。幸いその症状の多くは季節性インフルエンザと変わらず、致死率などもスペイン型のような 2%に達するようなものではないようですが、通常のインフルエンザの流行を超える多くの人が罹患する可能性があります。したがって感染しても多くの人は軽・中等症であることが考えられますが、低い割合であっても多人数がかかるので重症者もかなり増えることになります。わが国の状況は、海外諸国に比し、患者発生数は少なくないものの、その中に占める重症者数、死亡者数はこれまでのとこ

ろ、非常に少ないのが特徴となっております。一方海外ではあまり報告のない小児での急性脳症発症例の増加もあり、感染の拡大とそれに伴い全体像の変化には今後の予断は許さないところであります

1976 年の米国におけるブタインフルエンザの発生を紐解くまでもなく、季節性インフルエンザの流行の大きい時でも、社会全体は騒然として、これに対してやむを得ぬこととは言いながら国としては対応策に大童となり、それまでの医学科学的検討を超えたところでの議論や決定が先行することがしばしば見られます。発生初期には様子の分からなかった新型インフルエンザも、未知の部分は多々あるものの、少しずつその姿が見えてきてもおります。本格的な冬季のインフルエンザシーズンを前に、日本学術会議として、これまでに得られた科学的医学的知見、それらに基づいて今後行うべきことについての考え方などをまとめ、広く会員および会員外の方々とそうした情報を共有しておくことは、これからのわが国におけるインフルエンザ対策そして感染症対策に有意義なことと考えられるため、今回の公開シンポジウム開催を計画いたしました。

５．次第

司会　　岡部信彦（日本学術会議連携会員、国立感染症研究所感染症情報センターセンター長)
　　満屋 裕明（日本学術会議第二部会員、熊本大学大学院医学薬学研究部教授）

〇開会の挨拶
13:00～13:05　岡部信彦（日本学術会議連携会員、国立感染症研究所感染症情報センターセンター長)
13:05～13:10　金澤一郎（日本学術会議会長、宮内庁皇室医務主管）

〇新型インフルエンザ－現在の状況
13:10～13:50　岡部信彦(日本学術会議連携会員、国立感染症研究所感染症情報センターセンター長)

〇新型インフルエンザの合併症－急性脳症と重症肺炎
13:50～14:30　森島恒雄（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究小児医科学教授）

〇新型インフルエンザに対するワクチンと抗インフルエンザ薬
14:30～15:10　庵原俊昭(国立病院機構三重病院院長)

休憩
15:10～15:20

〇今後のワクチン開発の必要性
15:20～16:00　山西弘一（日本学術会議連携会員、独立行政法人医薬基盤研究所理事長）

○人獣感染症としてのインフルエンザ
16:00～16:40　喜田 宏（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院獣医学研究科教授／人獣共通感染症リサーチセンター長）

○今後の新興再興感染症への備えの必要性
16:40～17:20　倉田 毅（日本学術会議連携会員、富山県衛生研究所所長）

○フロアからの発言・総合討論
17:20～17:40　岡部信彦・満屋裕明（司会）

○閉会の挨拶
17:40～17:45　満屋 裕明（日本学術会議第二部会員、熊本大学大学院医学薬学研究教授）

６．関係部の承認の有無：第二部承認

3	
幹事会	８４

提　　案

公開シンポジウム「科学技術と知の精神文化
新しい科学技術文明の構築に向けて」の開催について

１．提案者　大垣副会長

２．提　案　標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

１．主　催：日本学術会議、（独）科学技術振興機構

２．日　時：平成２１年１２月１１日（金）１３：００～１７：００

３．場　所：日本学術会議１階講堂（東京都港区六本木７－２２－３４）

４．開催趣旨：
　世界が大きな時代の転換期を迎えている現在、科学技術、そして学問は何をよりどころとし、どこへ向かうべきなのでしょうか。
　日本学術会議では大きな使命として、学術の視点から日本の長期的展望を社会に提示することに取り組んでいます。また、（独）科学技術振興機構社会技術研究開発センターでは研究会「科学技術と知の精神文化」を設置し、人々の精神・規範・文化と科学技術の関係を歴史に学び、さまざまな観点から議論を続けています。
　ここに新たな議論の場として公開シンポジウムを開催し、科学技術を進めるうえで基盤となる精神文化、そして学問と社会の将来について話し合います。

５．次　第：
　１３：００～１３：０５　開会挨拶
　・金澤　一郎（日本学術会議会長）
　１３：０５～１３：３０　基調講演
　・阿部　博之（日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授）

　１３：３０～１４：００　特別講演
　・石井　紫郎（日本学術会議外部評価委員、東京大学名誉教授）

１４：００～１４：３０　特別講演
・村上　陽一郎（日本学術会議連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

１４：３０～１５：００　特別講演
・和田　昭允（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

１５：００～１５：１５　休憩

１５：１５～１６：５０　パネル討論
〔司会〕
・有本　建男（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター長）
〔パネリスト〕
・大垣　眞一郎（日本学術会議副会長、国立環境研究所理事長）
・北原　和夫（日本学術会議連携会員、国際基督教大学教養学部教授）
・黒田　玲子（日本学術会議第三部会員、国際科学会議副会長、東京大学教授）
・西口　泰夫（同志社大学客員フェロー、元京セラ（株）会長兼ＣＥＯ）
・野家　啓一（日本学術会議第一部会員、東北大学理事・東北大学附属図書館長）

１６：５０～１７：００　閉会挨拶